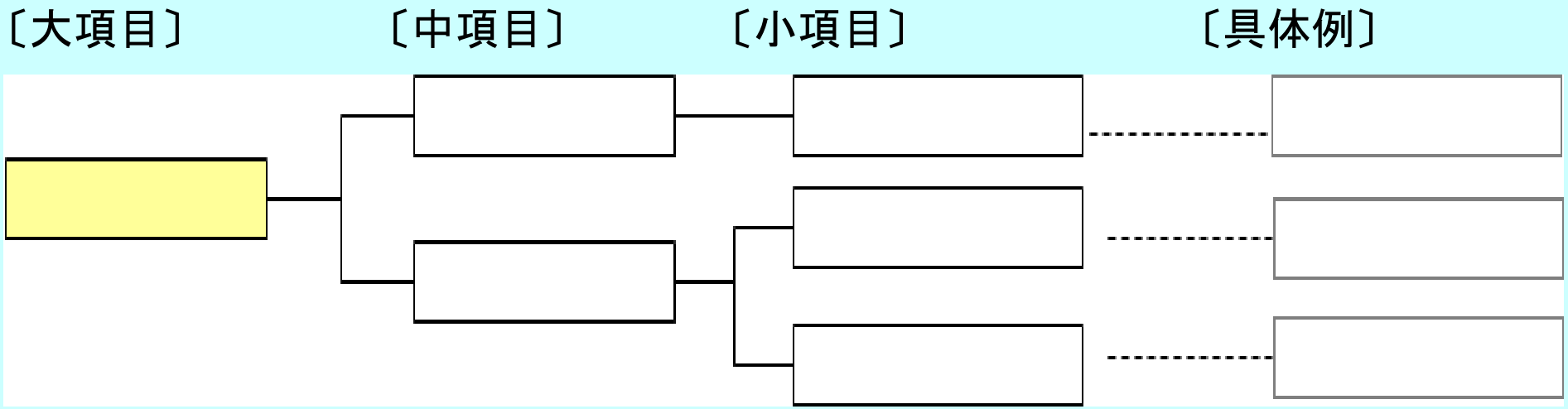
[2]

協働の着眼点［業種別］

業種別の「協働の着眼点」は、「大項目」、その下の「中項目」、さらにその下の「小項目」の樹形図。

策定作業では、参加者が実際の業務の具体例を棚卸し、これを「小項目」にまとめ、これを課題毎に「中項目」にまとめ、これを取組分野でまとめるという、積み上げの標準化作業を実施。



消費者の信頼向上に向けて共有されるべき食品事業者の取組の分野

食品事業者における課題

食品事業者の課題に対する対応

小項目の具体的実践方法を例示

Copyright (C) 2017 MAFF All Rights Reserved.

[2] 協働の着眼点［業種別］製造版～抜粋～

5.【製造における取組】
安全かつ適切であり、表示が適切で、また品質が維持された食品を販売するための、製造における取組を行っている

（1）【製造工程の管理】
- ①食品製造用の設備及び器具の食品接触面を清潔に保っている
- ②食品製造で使用する水は飲用適であり、安全な方法で処理及び維持管理している
- ③食品に応じた加熱、冷却、乾燥及び包装を適切な条件下で行えるよう管理している
- ④異物混入の防止、異物の検出及び異物の除去に取り組んでいる
- ⑤微生物及びアレルギー誘起物質の交差汚染を防ぐ対策をとっている
- ⑥製造工程中の食品の品質及び衛生検査を行っている

（2）【適切な表示の実施】
- ①適切に設定された、賞味期限または消費期限を食品に表示している
- ②原材料の情報及び製造した食品の情報のリンクを適切に行っている
- ③包装への印字を適切に行うよう、製造した食品及び印刷機の管理を行っている
- ④印字された表示が適切であることを確認している

（3）【食品の保管及び管理】
- ①食品に応じた条件下で保管及び管理している
- ②出荷前に食品の品質検査及び衛生検査を行っている
- ③ロット間の誤混入が起こらないよう食品を取り扱っている

（4）【工場での従業員の衛生管理】
- ①健康状態が適切でない従業員が、工場内に立ち入らない対策をとっている
- ②従業員の衛生状態が維持されるよう、工場での衛生管理を行っている
- ③工場での食品汚染を招きかねない行為を明確に禁止している
- ④工場への訪問者は、従業員と同等の個人衛生規定を守らなければ入場できないよう取り決めている

（5）【施設及び設備の設置】
- ①施設の立地（土壌、水質及び空気）が重大な汚染にさらされていないことを確認している
- ②施設の内部構造、及び窓やドア等の付属品を、耐久性に優れ、メンテナンスがしやすく、必要な場合には消毒可能なものにしている
- ③工場内に換気設備を設置している
- ④衛生的な作業に十分な照明設備を設置している
- ⑤食品製造に使用する設備は、衛生的な取り扱いに適したものを選定し、配置している
- ⑥施設、設備及び器具のメンテナンスのための用具を設置している

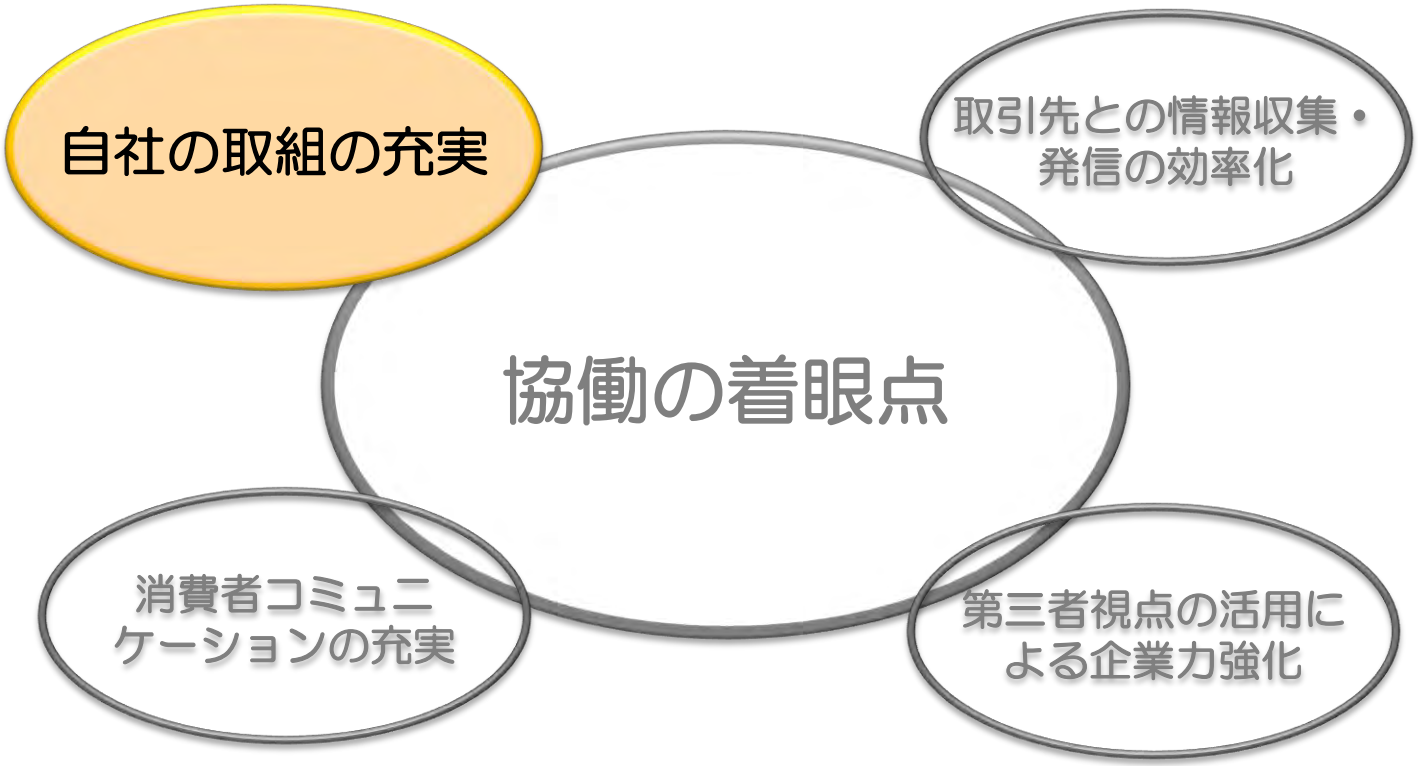
（6）【施設及び設備の管理】
- ①有害小動物（鼠及び昆虫等）の駆除及び侵入防止を行っている
- ②有害小動物の駆除及びクリーニング用等の薬剤について、適切な保管及び使用用途の管理を行っている
- ③食品の汚染が起こらないように排水及び廃棄物の処理を行っている
- ④施設及び設備の、メンテナンス及びサニテーションを行い、その効果の検証を行っている

Copyright (C) 2017 MAFF All Rights Reserved.

[2]

「ベーシック１６」について

業務振り返りから体制強化へとつなげる「ベーシック16」



Copyright (C) 2017 MAFF All Rights Reserved.

[2]

「ベーシック１６」の概要

●自らの業務を振り返り、事業者同士、そして消費者との信頼を築くためのツール
●「協働の着眼点」の大項目（１６の分野）を基に構成

ベーシック１６を記入すると

① 自らの振り返りができ、次の取組を考えることができます。
●見直すことで、力を注ぐべき部分や改善点が明らかになります。
●他社の取組を比較することで、新たな気付きに繋がります。

② 取引先に自社の取組を示すことができます。
●取組を整理して示すことで、取引先の理解が深まります。
●FCP商談会シートの記入の際にも活用できます。

③ 消費者との信頼を築くために必要な項目を確認できます。
●他社の取組を参考にして、お客様対応を充実することができます。

Copyright (C) 2017 MAFF All Rights Reserved.

[2]

「ベーシック１６」を利用した方の声

現状を振り返るのに、とても役立ちました（Ｂ社）

丁度このような気付きのシートはないかと思っていたところでした。ここのラインを最低限やっておくべき基礎と考え、それを土台に付加価値で競争していきたいと考えております。

文章かするということはわかりやすく大切なこと（Ｃ社）

今後は、着眼点の各項目を全社内で掲示し、経営計画書のファイルにも付加する予定です。（中略）再確認と課題意識を持つという意味で今回の作業は役立ったと考えています。

緊急時の取組が埋められていないことがわかった（Ｆ社）

項目に従って自社の取組を書き出していったが、「緊急時のコミュニケーション」のところに来て、社としてきちんと書き出せることがないことに気付き、この部分の取組の必要性を感じました。

自社の取組を客観的に評価することができました（Ａ社）

16項目の具体例の洗い出しをしていて気付いた点がいくつかありました。その一つに、わかりやすい仕組や体制を構築することが、取組としてまだまだ浅いと感じました。

暗黙知を形式知化することができた（Ｇ社）

16項目の視点から自社の取組を書き込んでみることで、暗黙知としていたことが明文化でき形式知とすることができました。また取組が弱い部分も改めて再認識しました。

重要な内容をわかりやすく16項目に整理してあり感謝しています（Ｅ社）

弊社の取組を16項目に従って整理いたしましたが、満足のいく取組になっているとは言いがたく、各内容をきっちりやっていかなければならないと痛感させられました。

- FCP専用ホームページ上からもシートのダウンロードができます。
- FCP専用ホームページ上で直接記入することもできます。
- FCP専用ホームページで自社のシートを公表することができます。

Copyright (C) 2017 MAFF All Rights Reserved.

「協働の着眼点」により
フードチェーン全体の透明性向上へ

1．共通言語の確立による食品事業者の行動の「見える化」

2．企業間コミュニケーションの円滑化・効率化

3．個別企業による「消費者の信頼向上」への取組の促進

Copyright (C) 2017 MAFF All Rights Reserved.